

## 〔普及の現場から〕

# 「津山地域におけるイネWCS生産10年の歩み」

津山農業普及指導センター

津山地域では、平成12年からWCS用イネの栽培が始まり、平成22年で10年がたちました。平成22年の作付け面積は68.4haに達し、県下有数のイネWCS産地となっています。農政の手厚い助成があったとはいえ、ここまでの広がりを見せた背景には、地域リーダーの存在や、おかやま酪農協（当初はホクラク）の存在がありました。そこで、今回は10年を区切りとして、これまでの取り組み経過について紹介したいと思います。

### 1 創始期（平成12年～13年）

津山市綾部地区において、試験的栽培を開始しました。青刈りイネからWCS用イネに転換し、品種は「コシヒカリ」で、生産農家1戸と利用農家1戸からスタートしました。

この時期から品種選定も始まり、1)多収、2)耐倒伏性、3)堆肥の有効利用の3点にポイントが置かれました。

### 2 生産推進期（平成14年～18年）

#### (1) 栽培ほ場の団地化

栽培地域の団地化への取り組みが始まりました。栽培ほ場はできるだけ1ha以上の団地化を行うことで、効率よい生産利用を目指しました。

#### (2) 収穫体制確立

平成15年には、おかやま酪農協（当時はホクラク）が国内1号機となる専用収穫機（細断長15cm）を導入し、栽培面積拡大に対応した収穫体系が確立されました。これを機に、栽培面積が一気に拡大していきました。収穫作業は、津山地域飼料生産コントラクター組合（平成10年設立、事務局：おかやま酪農協）が担うこととなりました。

#### (3) 地域リーダーが誕生

綾部地区から始まったイネWCS生産ですが、各地域に栽培が広がり、それぞれの地域にリーダーが誕生し、生産と利用の推進体制が確立していきました。

#### (4) 専用品種「ホシアオバ」の導入

綾部地区で、津山地域に適合した専用品種の選定試験を行った結果、「ホシアオバ」がふさわしいという結論になりました。

### 3 安定生産拡大期（平成19年～）

(1) 津山地域飼料稲生産利用研究会を設立  
平成19年7月、津山地域のWCS用イネにおける耕畜連携の円滑な推進を目的として、津山地域飼料稲生産利用研究会が設立されました。生産農家39名、利用農家8名でスタートし、それぞれ生産部会、利用部会を開催しながら、栽培技術や品質、牛への給与方法などについて研修、情報交換などを行っています。原則、全ての生産農家、利用農家が会員となっています。

（平成23年2月現在、生産農家；88名＋4組織、利用農家30名）

(2) おかやま酪農協が専用収穫機改良型を導入  
2台目の専用収穫機（1号機の改良型）が導入されました。

(3) 平成21年、新たな作業受託組織が設立  
酪農家3名で組織された作業受託組織（株）アグリアシストシステムが平成21年4月に発足、汎用型飼料収穫機を導入し県下全域の飼料作物の収穫を請け負いました。

(4) 5台体制による津山地域収穫作業

平成22年度には、（株）アグリアシストシステムが2台目となる汎用型収穫機を導入し、これにより津山地域のイネWCSの収穫作業

## 岡山畜産便り2011.03

は、県南の収穫作業受託組織（アグリライフ岡山）と併せて5台体制で、68.4haを収穫しました。

### 4 これから

#### (1) 期待のWCS用イネ新品種「たちすずか」導入へ

来年度から、高糖分WCS用イネの新品種「たちすずか」が導入されます。地域内での生産、流通は綾部飼料稲生産組合が行う予定で、畜産農家にとって、より利用価値の高いイネWCSの流通が期待されています。

#### (2) 関係機関の支援体制確立へ（別表参照）

現在の支援体制は以下のようになっています。

- ア 円滑な栽培推進のための情報収集・調整  
地域水田農業推進協議会（市町村・JA）
- A) 津山地域農業振興技術者連絡協議会
- イ 栽培技術支援、利用技術支援  
農業普及指導センター、おかやま酪農協
- ウ 巡回・調査  
津山地域農業振興技術者連絡協議会
- エ 安定生産のための収穫利用調整  
津山地域飼料稲生産コントラクター組合（事務局：おかやま酪農協）
- オ 需要量調査、利用推進  
おかやま酪農協、JA津山

今後も引き続き、同体制を維持しつつ、関係機関と情報の共有化を図りながら連携強化を図っていきます。

#### (3) マッチング会議を開催

新たな動きとして、平成23年度作付けに向けた、マッチング会議が各地域で開催されました。これは、良質で安定的にイネWCSが流通するために、地域水田協が中心となって行ったもので、利用供給協定を結んでいる耕種農家と利用農家が相対し次年度作付けに向け協議しました。

協議内容は、必要ロール数、栽培面積、栽培品種、収穫機、ロール持ち出し時期、堆

肥散布時期などについてです。

今後、更なる飼料高騰が予想される中、イネWCSの需要が高まる可能性があります。イネWCSの安定流通には双方の信頼関係が最も重要です。

良質なイネWCSを利用農家がいつでも安心して利用できるようにするため、生産農家の技術向上、品種選定、受託組織との調整、利用推進等について関係機関がより連携を強化して支援していく予定です。



関係機関によるほ場巡回



マッチング会議

### 飼料用ホールクロープサイレージ化 多くの参加者の熱い視線を受けて実施

国産飼料自給率向上と、米の需給安定のための取り組み、さらには、最近の口蹄疫やBSE対策など感染の心配のない安全な飼料確保のため、平成十二年度から播種、畜産農家の間で飼料用の栽培・利用が注目され、全国各地で取り組まれています。

岡山県では昨年からホールのw.c.s（ホールクロープサイレージ）化に取り組み、今年、津山市で岡山県で初めて飼料用種苗の栽培に取り組み、九月十日に収穫を行いましたので、その概要についてご報告いたします。

- 作付け及び収穫の概要
- |      |                 |
|------|-----------------|
| 区分   | 内容              |
| 圃場面積 | 一〇八ha           |
| 品種   | 中国146号（ホシアオバ）   |
| 田植え  | 五月二十八日<br>二十四四種 |
| 収穫調整 | 乳酸菌添加           |
| 草丈   | 一一〇～一五〇cm       |
| 穂数   | 九～四十四本          |
| 平均   | 二一・二本           |
| 栽培密度 | 十一株/㎡           |



新品種「たちすずか」



刈り取りバール及びラップ作業

刈り取りステージ  
 稲熟期～黄熟期  
 農業用 苗箱防除のみ  
 除草剤使用 田植え直後及び  
 ヒエ対策  
 収穫 九月十日  
 十a当たり収量 一・三〇〇kg  
 (七・八ロール)

収穫機械 w.c.s収穫機及びラップ専用機

- 1、取り組みについて  
種苗選定、栽培と利用に当たっては、種苗農家と畜産農家の連携と協力、さらには関係機関の推進体制が必要です。
- 2、品種選定について  
飼料専用種は、食用種の品種と同様の管理技術で栽培ができます。また、多収性と耐倒伏性、耐病性に優れていることや省力・低コスト生産を条件としました。
- 3、収量について  
専用種では、十a当たり収量が乾物で約一・二t、原物で約三・〇t（食用用種）

- 4、栽培上の注意点  
品種では、乾物約一・〇t、原物約二・五t期待できます。
- 5、収穫時期について  
収穫調整は、稲熟期～黄熟期（通常出穂から二十五日前後）が適期とされています。
- 6、収穫調整機械について  
収穫作業には、専用収穫機、自走式ホールクロープ収穫機、五条刈り、湿田でも利用可能なクローラ型で密度の高い梱包と丁寧なラップ（六層）としました。この専用機での作業性



飼料用種丈は110～150cm

### 津山地域における産地支援体制



別表